

平成28年3月7日

各位

南日本銀行

『第2回 助八古道を歩こうかい』を利用した観光振興支援について
—地域自ら来訪者を集める新しい観光の街づくり—

平成28年2月21日(日)、下甑島で「第2回助八古道を歩こうかい」が開催されました。

この「助八古道」は、かつて島を横断するのに唯一の生活道路として機能していたものです。時がたち、島内の道路整備が進み、使われなくなりましたが、下甑島の歴史や文化を語る上で欠かせない存在でした。

特に、西山地区に抜けた時に現れる「ナポレオン岩」、ドクターコートでお馴染みの診療所等は、厳しい自然環境の中にありながら人の息遣いを感じられる場所で、この古道は景観に優れた「すばらしいトレッキングロード」です。

この「トレッキングロード」を観光資源として活用できないか薩摩川内市の行政、地域おこし隊が着目し青瀬地区、西山地区の各コミュニティが応呼する形で「地域自ら来訪者を集める新しい観光資源の構築」を目指し、大学を巻き込む形でスタートしたのが『助八古道を歩こう会』で今回が第2回目でした。

今回、当行が支援した目的は、当行の持つ県内外の店舗網を使い下甑島の魅力を発信し島外からの参加者を誘致すること、そして『助八古道を歩こうかい』を観光の目玉として成長させることです。

具体的には鹿児島純心女子大学と“助八古道”のブランド化を目指しマフラータオル・ステッカーを製作。この商品を当行の県内外の店舗網を通して販売・配布し『助八古道を歩こうかい』を告知すると同時に下甑島の魅力発信に努め参加者誘致を図りました。

大会当日は前日からの悪天候が嘘のように晴天に恵まれ、島民参加者を中心に約100名で、距離6Kmのコースを約3時間かけて歩きましたが、前日からの悪天候で島外からの交通機関が全てストップとなったことで、当初予定していた約60名の島外参加者が来島できず不参加となる等、課題も浮き彫りとなりました。

今回、悪天候により島外者の参加は叶いませんでしたが、交流会等の催しでは下甑島の郷土料理が振舞われるなど手厚い「おもてなし」もあり、島内参加者や運営スタッフから「今後も地元活性化に役立つイベントに育てる。」と力強い言葉を頂きました。

こうした取り組み支援が地域活性化に繋がることを期待し、引き続き地方創生の一端を担ってまいります。

【お問い合わせ】

南日本銀行 営業統括部

TEL 099-226-2861

担当 竹内・上園

以上